



北海道神社庁長杯争奪
道神青協親睦スポーツ大会

臨時総会・懇親会

道
神
青

第37号
北海道
神道青年協議会
平成18年11月30日

去る平成十八年十月五日、道神青
協恒例のスポーツ大会が開催され、
本年は例年のボウリングに加え野球
との二種目での開催となりました。
当日は希にみる素晴らしい秋晴れ
のもと、豊平川河川敷にて野球は午
前九時にプレー。北海道神宮・渡島檜山連合・文月会・胆振空知連
合の四チームにて総当たり三試合の
熱戦が繰り広げられ、気持ちの良い
汗を流して親睦を深めました。結果
は北海道神宮が三戦三勝のストレー
ト勝利で見事優勝し幕が閉じました。

ボウリングは午後三時よりティセ
ンボウルにて開催され、多数の参加
を戴き白熱した試合を展開。皆真剣
な眼差しでピンを見据える姿には感
動を覚えました。

スポーツ大会終了後「さっぽろテ
レビ塔」に会場を移し、臨時総会並
びに懇親会が行われ、田湯会長より
悠仁親王殿下御誕生に際してのお祝
いの報告がされ、続いて、次期会長
に十勝支部大野現副会長が、監事に
は網走支部藤川前理事、空知支部會
田現理事が選出され、満場一致で承
認されました。

ボウリング大会結果

単位会団体準優勝
宗谷青年神職会 三二二点

個人優勝 菅原秀男 二八八点

準優勝 堀田智彦 三六一点

三位 丸井芳明 三三六点

四位 山口貴生 三二二点

五位 菊田裕一 三二二点

女子優勝 藪下瑞香 一五九点

ストライク賞 堀澤雅明 一三九点

スペア賞 丸井芳明 一〇回

レーン対抗戦 勝利 十網会(十勝・網走チーム) 一〇回

準優勝 網走神道青年会 (一ゲーム投球交代制)
一四五点
一六七点

樽前山神社

権利宜 濱田啓史

野球大会結果

第37号

駒
苦
賞
永井承邦

よく頑張つたで賞
野尻岳男
小板飲司
中村昇洋

ファインプレー賞
菊池重芳
荒木力弥
板垣朗

ホームラン賞
中島正倫
水嶋恵嗣
藤山宣廣

優秀賞
藤山宣廣

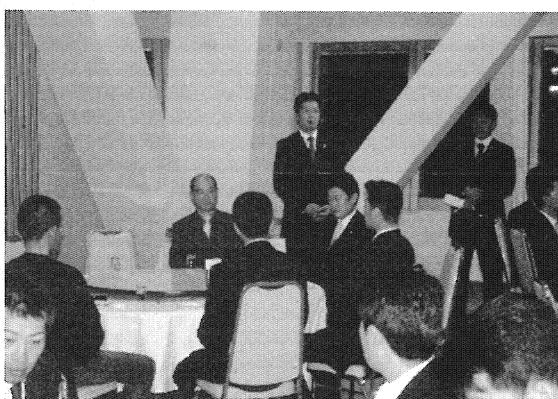
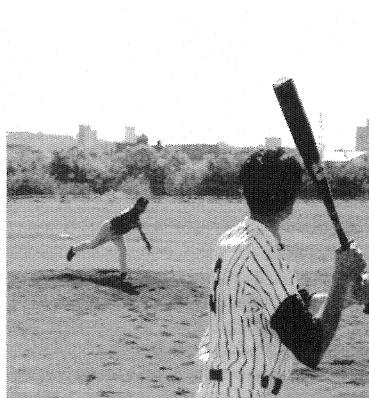
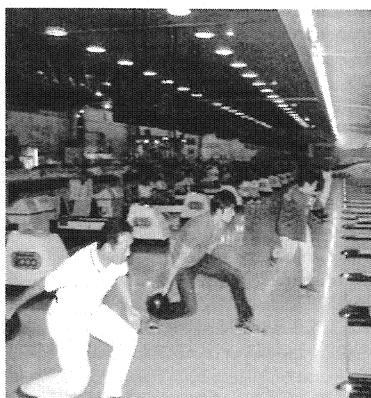
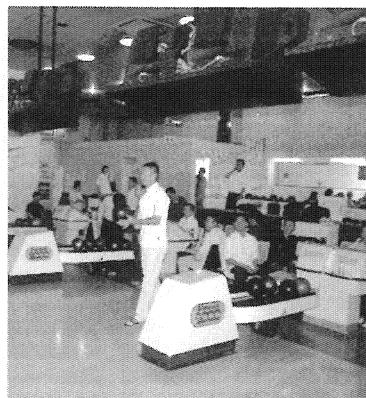
MVP
枝廣典生

三位 胆振空知連合
四位 札幌文月会

準優勝 渡島檜山連合
優勝 北海道神宮



	北海道神官	渡島・檜山	胆振・空知	札幌文月会
北海道神官		○ 15対6	○ 26対6	○ 16対3
渡島・檜山	×	6対15	○ 10対3	○ 11対7
胆振・空知	×	6対26	× 3対10	○ 9対7
札幌文月会	×	3対16	× 7対11	× 7対9



道 神 青 通 信

平成十八年夏期セミナー

平成十八年九月二十六日・二十七日の両日、國學院大學内の新校舎地下講堂にて、平成十八年度神青協夏期セミナーが開催されました。今年度の主題は「皇室と国民との絆」皇室の伝統とともに」であり、百八名の会員が全国より集いました。

悠仁親王殿下御誕生をお祝いする挨拶に始まった開講式後、講演開始。以下が四講演の内容です。

第一講は、外交評論家の加瀬英明氏が「御皇室と日本」という演題で講演。世界の王室・王朝の特色を挙げ、日本の皇室について論じられた。他国と違い日本は皇室祭祀を天皇自ら行われていること、御歌の伝統を引き継がれていることが重要であり、日本人の力の理由は「天皇家を中心にしていること」であると講演された。

第二講は、埼玉大学教授の長谷川三千子氏が「民主主義と皇室」という演題で講演。日本人の政治道德思想が、十七条憲法や五箇条の御誓文に表わされている和の精神から生まれました。



神青協臨時総会

北海道神宮

権利宣 菊池重芳

れたものであり、輸入のデモクラシーではない日本の民主主義を世界に発してゆくべきだと論じられた。

翌二日目の第三講は、ノンフィクション作家で、「拒否できない日本」等の著者である関岡英之氏が「大和民族としての自覚と自尊」という演題で、小泉八雲の著書から、日本の素晴らしさとそれに対する欧米資本の脅威を、そして自身の執筆活動のきっかけである、アメリカの年次改革要望書からもそのことが現実にな

去る平成十八年十月十一日午後一時よりに神社本庁二階大講堂に於いて神青協臨時総会が開催された。



つては、今後、アジア・歐米との中で日本人本来の感性を失わずにいることの大切さを論じられた。

第四講は、國學院大學教授の大原康男氏が今回のセミナーの総評をされ、若い神職が同世代の人々に語りかけることの大切さを論じ、質疑応答では、皇室にまつわる諸問題について、活発なやりとりをされた。

以上の四講演を拝聴し、皇室に由来する日本の国柄の上質さと、それを護持し世界に知つてもらうことの重要性を再認識でき、大変有意義なセミナーでした。

会長挨拶では悠仁親王殿下御誕生の祝辞、北朝鮮による核実験等について述べられ、今回早い時期に臨時企画・運営に対する表彰として感謝状が贈呈された。

神社本庁教化部長より御挨拶を頂戴した。又、永井会長より新潟県神道青年協議会に去る八月二十三日に開催された神事芸能全国大会に於ける企画・運営に対する表彰として感謝状が贈呈された。

開会式では、神殿拝礼、国歌斉唱、

総会が開催されたのは、様々な時局問題に対応する為と説明があつた。

統いて議事が採択され、先ず「悠

仁親王殿下御誕生奉祝活動特別会計予算案」に関する件の審議に移り、これを永井会長が説明し審議の結果、承認された。次に次期会長並びに監事選出に関する件の審議に移り執行部より次の四氏がそれぞれ候補者として報告された。

会長（九州地区）久富真人君

監事（北海道地区）田湯直宜君
監事（関東地区）乙黒洋君

監事（九州地区）春木秀紀君
審議の結果、これも満場一致で承認され、代表として久富次期会長が、就任の抱負を込めて挨拶を述べた。

挨拶では、田湯次期監事のことを人格者であると表現していたが、これは現道神青協会長等の数々の役職を歴任して活躍している姿を見てきた。

閉式の後、時局問題報告会が開催され、岡山県と福岡県の青年会から事例報告があつた。

厚別神社
林宜三橋厚友

全国野球大会



秋の長雨も終わりを告げ、東京は高く澄んだ秋空に時間も風も穏やかに流れる寒露の頃、セミに代わってトンボの姿をよく見かける絶好の野球日和。

十月十二日。明治神宮外苑野球場にて「全国青年神職野球大会」が開催されました。実行委員長・小嶋今興氏の「野球を通じ親睦を深め、青年神職としての体力向上の一助となれば・・・」との開会挨拶に始まりましたこの大会には、我々、永井承邦実

として肝心なスコアは・・・。本戦一回戦は強豪、神奈川県選抜との戦いででした。前日より体調管理は整えていたはずですが、淀みない東京の秋空に微粒のアルコール分子が混ざり吹いていたのでしょうか。永井投手の熱い力投と爽やかな青いハンカチに野手が応えることが出来ず、一〇対二のスコアで完敗いたしました。

ここで本線からは脱落し、五位決定戦トーナメントへとステージは強制移行。しかしながら、ここでようやく我ら北海道チームにも清々しい朝の到来です。敗者チームには次がない土壇場にて我々は東北選抜に八対四で快勝、続く五位決定戦準決勝では北陸選抜を一〇対〇で完封し、大詰め五位決定戦決勝では! 東海選抜に六対四の惜敗。結果、全国十チ一ム中六位の結果で神宮外苑野球場を行きました。

行委員会幹事を筆頭に北海道青年神職野球部! 十二名も早朝より意気揚々と参集した次第でござります。

皆、前日よりモチベーションを高め、体調管理を万全に整え迎えた朝であつたことは言うまでもございません。北は北海道より南は九州まで全国から十チームが参加し、トーナメント方式にて試合は進みました。



甲子園、社会人野球経験者が連なる全国の厚い壁に、一日四試合。北海道チームも本当によく奮闘いたしました。「止まらぬ汗に、笑顔に終始包まれた部門」では間違いく全国一位の栄冠に輝いたことでしょう。『日頃、スポーツにあまり親しんでいない!』私達が一日だけの大ハッスル。怪我もなく、最高の穏やかな秋の一日をプレゼントして戴きました。

市来知神社
権林宜枝廣晴基

神青協国内諸宗教事情視察研修

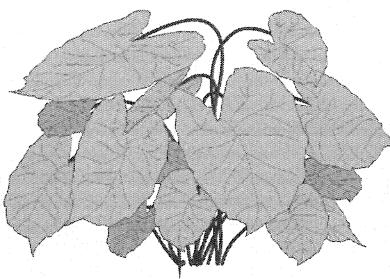
去る十一月九日・十日、栃木県日光市に於いて『神道と山岳信仰』という主題のもと、神道青年全国協議会国内諸宗教事情視察研修が涉外委員会の主管にて開催された。全国より約五十名の会員が集い、道神青協からは永井参与・田湯会長が参加した。

開講式に先立ち、会場となる日光二荒山神社を正式参拝し、三つの異なる宗教の観点から、仏教は第一講「日光の歴史と神仏習合」千田孝明（天台宗觀音寺住職）先生、修驗道は第二講「日光修驗と諸山信仰」中川光熹（日光山興雲律院住職）先生、神道は第三講「日光二荒山信仰について」中磨輝美（日光二荒山神社彌宣）先生より御講演戴いた。

また視察研修として、現在特別に橋の下が見学できる二荒山神橋より、本宮神社・四本龍寺・輪王寺・日光東照宮の順に約二時間、日光殿堂案内協同組合の春日武之理事長から説明を戴きながら徒歩で視察した。

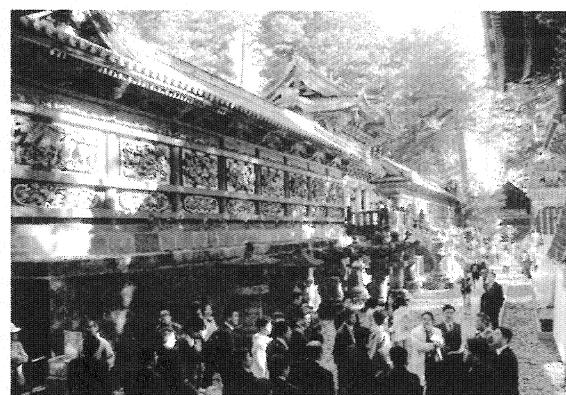
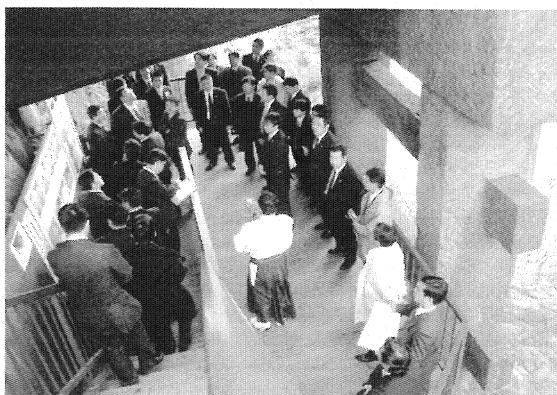
男体山を中心とした日光の山岳信

仰は、積み重ねてきた歴史の中で、神仏習合という我が国特有の宗教觀を表している。明治維新後、二社一寺の神仏分離は猶予の後、数年遅れで実施されたが、現在もお互いに深く関わっている。徳川家康公が江戸の鬼門にあたるこの日光の地を選び、自らが守護神となりて江戸を望む。様々な事柄が交わり二社一寺が存在していることを学んだ中から、我が国の宗教や信仰に対する寛容さを覗えた研修会であった。



新琴似神社

宮司 田湯直宜



神道青年全国協議会 事業領布品



●印肉 (朱・墨) 一樽給用液付 10cm×12cm

1個 希釈 2,900円 (送料別)

●大麻用印肉 (朱・墨) 一樽給用液付 10cm×12cm

1個 希釈 5,800円 (送料別)

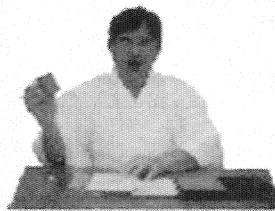
『印肉・大麻用印肉・印肉補給液』

一 葉書者(新規)の登録料、年会費、年会員登録料を支払う事で、



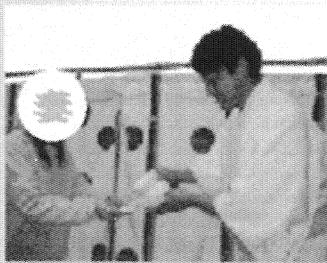
●印肉補給液

1個 希釈 (朱) 3,400円 / (墨) 3,100円 (送料別)



- 蓋が落ちにくくデザインは神青監オリジナル
- 内部まで上蓋をかけ、カビ・ぬれり等の汚れが付きにくい
- 口が大きい為、内部までしつかり洗って衛生的
- 注ぎ口保護のため、ピニールキャップ付
- 容量4合

1個 希釈 4,000円 (送料別)



※その他の事業品は
『領布品の葉』をご覧ください。

『御神酒拝誠瓶子』

【ご注文・お問合せ】

神道青年全国協議会 総務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目1番2号 神社本庁内

電話: 03-3379-8011 FAX: 03-3379-8299 <http://www.shinseikyo.net>

軍都旭川の象徴 旧旭川偕行社



現在の旧旭川偕行社

旭川市春光に白亜の洋館がある。現在、「旭川市彫刻美術館」として使用されているこの建物は、明治、大正、昭和と軍都旭川を象徴するものであった。

明治二十九年、軍備拡張計画によつて第七から第十二までの六個師団が増設されることとなつた。このうち第七師団は鷹栖村に決定し、同師団は師団の全兵力を一ヵ所に集めるという帝国陸軍で最大の規

模を持つものとなる。一千町歩にも及ぶ土地に兵営は歩兵三個聯隊と四個特科隊及びそれに覆馬場。また、官衛として師団司令部、衛戍病院、衛戍監獄、憲兵隊、兵器支廠、營外居住の将校、下士官の為の官舎五〇〇余戸の建築物が臨時陸軍建築部設計のもと、東京・大倉組の手によつて始められた。

明治三十二年七月に起工式を行つた第七師団建設工事は連日五千人から多い時には八千人もの人を用いて明治三十五年司令部の新築移転をもつてほぼ完了した。

この三十五年に第七師団設営工事を担当した大倉組が工事完成を記念して建築し偕行社に寄贈したものが「旭川偕行社」である。

「偕行社」とは明治十年に陸軍将校の団結と親睦を図るために結成された共済団体で師団所在地に集会所が設けられた。現存している遺構は少ないが「旭川偕行社」もその一つであり、かつ最大規模のものである。

「偕行社」はこの建物だけでなく

学校附属私立北鎮尋常高等小学校」が設けられていた。小学校は師団将校の子女教育のための施設で明治三十四年二月に認可を受け同年四月に開校した。開校時の児童数は三十五人であったという。この小学校は現在旭川市立北鎮小学校として今にその歴史を伝えている。

「旭川偕行社」の建築様式としてはコロニアル様式の木造二階建て。二階正面を吹き放し廊下のロッジア形式とし、中央にバルコニーを設け、下部を玄関ポーチとしている。

建物は将校達の社交場として、また師団関係者の会議・研修会・講演会・宴会・結婚披露宴・宿泊などに使用され、明治・大正・昭和と師団と共に歴史を重ねてきた。

明治四四年八月には東宮であられた大正天皇が旭川に行啓になられ、偕行社に二泊されている。この際第一次改装が行われ二階正面ベランダにガラス窓が取り付けられた。

明治四五年「日本におけるスキーテオドル・フォン・レルヒ少佐が第7師団野砲兵第七聯隊に配属着任し、偕行社前にて少佐と七師団将兵を写

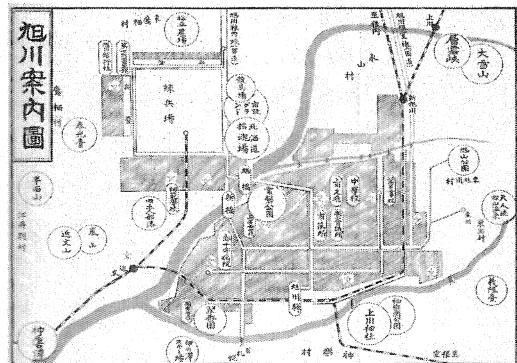
した写真が現存している。

大正十一年七月摂政宮であられた昭和天皇が偕行社に御宿泊、また昭和十一年九月にも陸軍特別大演習を統監するために旭川に行幸の際にも宿泊された。偕行社の二階には「開かずの間」が三室あり、それぞれ行在所、御宿室、食堂として用いられた。現在も寝室が展示室となつてゐるものの、入室・見学でき、菊の御紋の入った天井の意匠によつてその存在を確認することができる。

まさに師団のシンボルであつた偕行社も終戦と共に悲惨な運命をたど



昭和11年偕行社にお着きの昭和天皇ご一行



昭和7年旭川案内図（左上に旭川偕行社）

た旭川市立旭川郷土博物館が移転し、博物館として再スタートした。

平成元年には明治期の建築技術の枠を集めた建物として意匠も優れていることから国の重要文化財指定を受けた。

また平成五年には博物館が新館に移転し翌年旭川に縁のある彫刻家、中原悌二郎を記念した旭川市彫刻美術館として開館し現在に至っている。

旭川の歴史と共に歩んできた「旭川偕行社」、現在は彫刻の展示等で建物の鑑賞をするには残念な部分もあるが、旭川市にお越しの際は是非御覧戴きたい建物である。

戦火は免れたものの、GHQが接收し進駐軍の宿舎に使用された。昭和二四年には市に管理が移り、校舎や集会所に利用されたが老朽化は止めようがなく荒れ放題となり、「お化け屋敷」と称されるようになつた。

治安上の問題もあり一時は解体案も持ち上がった程だった。

昭和四三年、開道一〇〇年記念事業のひとつとして道の補助を受け復元されることとなり、第一次改裝前つまり創建当時のままに復活を果たした。復元後、当時北海道護国神社内の旧北鎮兵事記念館を借用してい

道神ホームページ

編集後記

道神青通信第三十七号発行にあたり、お忙しい中貴重なお時間を割いて御寄稿下さいました皆様方に厚く御礼申し上げます。お陰様でありますようかと存じますがお許し下さいます。

【曾】

題字「道神青」について

本通信は、平成四年二月一日創刊にあたり、当時の中野尹亮北海道神社序々長に揮毫戴いたものです。

E-mail (✉) doshinsei@dream.com
手稻神社社務所内
北海道神道青年協議会事務局
新アドレス
info@doshinsei.jp

■ 北海道神道青年協議会
公式ホームページ
<http://www.doshinsei.jp/>

※ホームページ公開に伴い、道神青協事務局のメールアドレスが左記のアドレスに変更になりました。

美瑛神社
株宜狩野智也

新アドレス
info@doshinsei.jp

TEL 011-681-2764
FAX 011-681-7307